

令和6年度 名張市総合計画審議会 事項書

令和6年7月3日 10時～

場所 庁議室

1. 会長あいさつ
2. 市長あいさつ
3. 事務局からの説明
4. 意見交換
5. その他

事務局からの説明

- 令和5年からスタートしました総合計画「なばり新時代戦略」は1年を経過し、初めての評価の時期となりました。
- 各施策に対する評価結果は行政評価委員会で取りまとめ、進捗状況報告書として市民に公開します。現在公開に向けて事務を進めているところです。
- 現時点で取りまとめされた各施策の進捗状況報告書の抜粋を本日の審議会の参考資料として添付させていただいておりますので意見交換会の参考にしてください。
なお、この報告書は並行して行政評価委員会で内容の精査をしておりますことをご理解ください。
- また、この行政委員会は2つの部会から構成されており（次ページ全体イメージ参照）、事業を推進し、設定した目標の進捗管理等を行う施策評価部会とより効率的にかつ、費用対効果を最大限に発揮するため事務事業を見直す行財政改革部会とで構成されています。
- 今日の審議会は3ページの全体イメージのピンクの部分になります。この審議会でいただいたご意見は各部局へフィードバックし、来年度以降の施策推進の参考にさせていただきますので忌憚のないご意見をお願いします。
- 意見交換会の前に事務局から各施策について要点を説明させていただきます。

審議会の進め方について

○重点プロジェクトと施策を下記の3つに区分けし、それぞれの区分ごとに委員からの意見を
お願いします。委員からの意見を頂いた後、市長から意見をいただきます。
その後、時間(おおよそ1区分30分程度)を見ながらにはなりますが、意見交換会を行い、
次の区分に移行します。

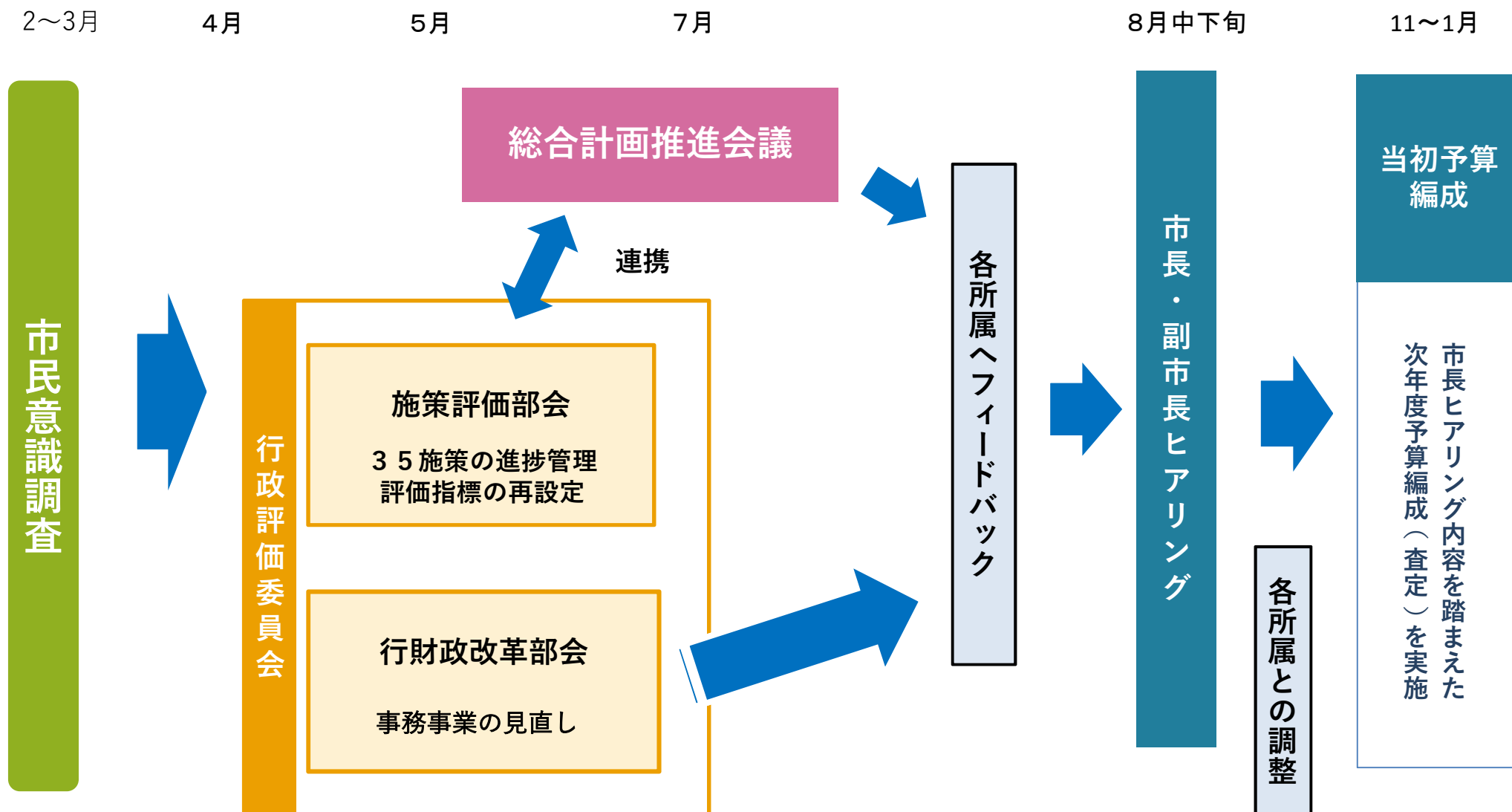


○令和5年度の実績についての良かった点、できてなかった点についての議論になると、事務局
や担当者が経緯等説明することとなります。できれば市長と委員の皆様が意見を交換し、将来
の名張市がより良くなるような場とさせていただきたいと思っています。

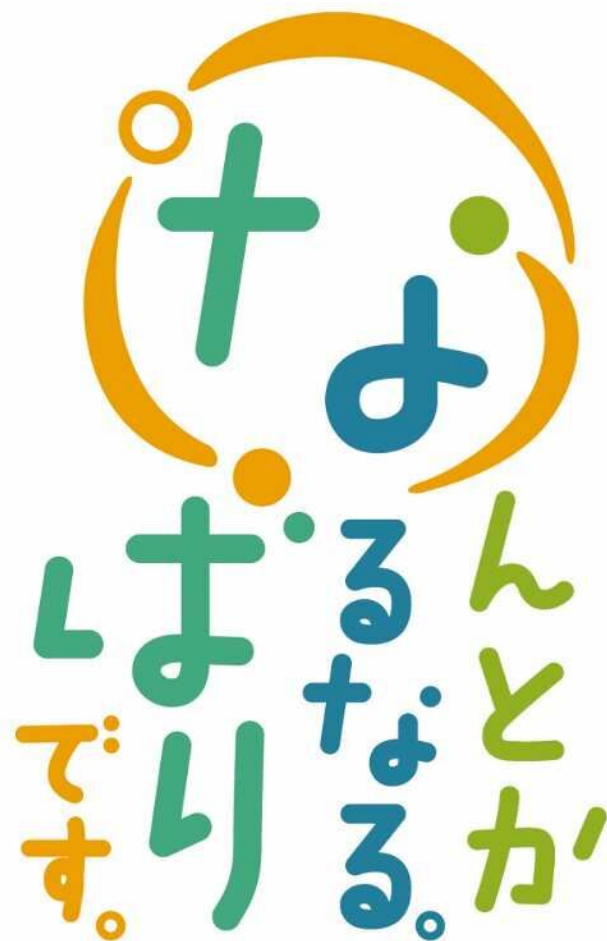
実績についてのご意見は審議会終了後または、後日事務局へお願いします。事務局又は担
当者が改めて回答させていただきますのでご理解ご協力よろしくお願いいたします。

令和6年度行政評価等の取組の流れ(全体イメージ)

参考資料



令和6年度 総合計画推進状況報告書 (審議会用)



悩みや不安なことも支え合いでなんとかなる。

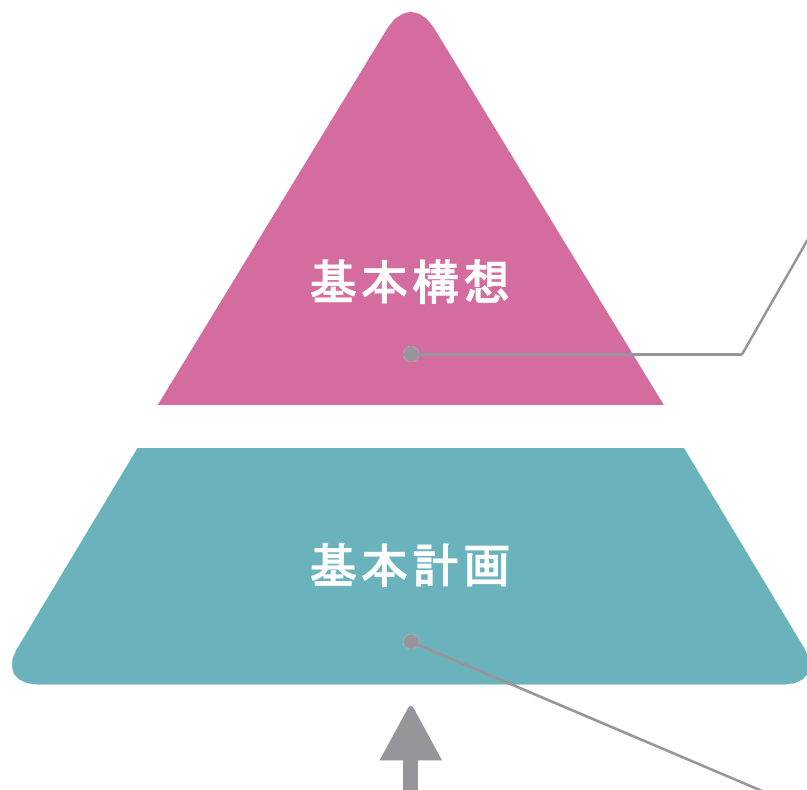
人のつながりやあたたかさ、そして、市民から生まれるさまざまな活動がまちの自慢です。

チャレンジをしたい人や元気になりたい人はぜひ名張へ。

名張の市民が「なんとかなるなる」の精神で受け入れます。

総合計画推進状況報告書について

総合計画は、基本構想と基本計画で構成されており、
この進捗状況報告書は下記の進行管理の部分になります。



評価による計画の進行管理

行政評価を通じて、有効性・効率性・必要性の観点から点検を行い、毎年度その結果を公表します。

基本構想

計画期間

10年間 2023（令和5）年度～2032（令和14）年度

中長期的なまちづくりの指針となる基本理念と目指す10年後の姿を定め、それを実現するための重点プロジェクトと7つ基本施策を示しています。

基本理念

語れるまち なばり

目指す10年後の姿

変化をおこし 活力あふれ
みんなでつくる 大好きなまち なばり



35の基本計画

計画期間

4年間 第1次 2023（令和5）年度～2026（令和8）年度
第2次 2027（令和9）年度～2030（令和12）年度

重点プロジェクト



おこす

▶ 産業をおこす

○地域資源を活用した地域産業の活性化

令和6年4月20日、赤目四十八滝溪谷保勝会が運営する溪谷入口の「日本サンショウウオセンター」が、「赤目滝水族館」としてリニューアルオープン。「溪谷内にある本物の滝、野生の天然記念物が一体となった巨大水族館」として再スタート（この取組は令和6年度の実績となりますが、4月オープンの準備を令和5年度に行いました。）



日本サンショウウオセンター「岩窟滝水槽」



若者でにぎわいをおこす

若者のまちづくりへの参画

プレゼンの写真を挿入予定

名張青峰高校生徒による「名張市を活発にする提案」



名張高校 地域探求学習発表会の様子

重点プロジェクト



おこす

▶ 地域と多様に関わる人々をおこす

○市民協力者の増加、関係人口の増加

名張市の魅力を市内外に発信するために、シティプロモーションサイトを立ち上げ、また、市民約40名がワークショップを行い、ブランドロゴの創出に取り組みました



ブランドロゴ発表会



なばりの魅力 なばりの子育て ログの物語 お問い合わせ



名張市シティプロモーションサイト





この施策で目指すもの

産み育てるにやさしいまち”なばり”の実現のため、安心して子どもを産み育てることができる妊娠・出産・育児の切れ目のない相談・支援や、社会全体で子どもの育ちと子育てを支え、全ての子どもが健やかに育ち、安心して子育てができる環境整備を進めます。また、安定した保育サービスを提供するため、待機児童の解消に努め、多様な保育ニーズに対応できるサービスを提供します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 名張市子ども条例に基づくばりっ子会議を7回開催し、ばりっ子モールの企画等のほか、通学路の危険な場所の改善を求める提言を行いました。また、クラウドファンディングにて同会議考案のキャラクター「なばりん」の衣装を作成しました。
- 夏休みにスポット利用ができない名張小学校区放課後児童クラブで、教室を利用した期間限定のクラブを行いました。
- 公立幼稚園2園と公立保育所1園を統合した民営の認定こども園「名張きぼうのこども園」の施設整備を行いました。
- 子どもの発達に係る相談に関して、年間855件の相談に対応するとともに、相談後も定期的に継続して関わり、支援につなげました。
- 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の新たな取組として「ママのおしゃべり会」「プレママ・プレパパクラス」の教室等を開催し、強化に取り組みました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5) 実績	目標値（2026年時点）
1	保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策に満足している市民の割合	68.7%	68.5%	73%
2	こそだてサポーター養成者数【延べ数】	3,763人	5,151人	6,000人



この施策で目指すもの

「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく就学前教育を進め、小学校への円滑な接続を図ります。

また、義務教育9年間を見据えた教育活動において、系統性・連続性を確保した小中一貫した教育を推進すると同時に、一人一人の個に応じた指導や支援を行う教育実践を進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 小学校生活を見据えた幼児期における学びの土台づくりのために、市内すべての幼稚園・保育所（園）・認定こども園に元小学校教員である「ピカ1先生」と幼児教育アドバイザーが年間4回巡回しました。
- 名張市特別支援教育システムに基づき、チーフコーディネーター、教育センター教育専門員、各学校の特別支援教育スーパーバイザー等による学校巡回を実施し、校内支援体制の強化を図ることができました。
- すべての中学校区において、義務教育9年間の系統性・連続性のある指導を行うために名張市小中一貫教育推進針を策定し、本市が目指す「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」の推進を図っています。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5) 実績	目標値（2026年時点）
1	学校満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合	69%	71.2%	71%
2	全国学力・学習状況調査による「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合	小学校76.6% 中学校78.6%	小学校84.4% 中学校85.7%	小学校81% 中学校82%
3	通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の指導計画を保護者の合意のもとに作成している割合	小学校86.1% 中学校25.0%	小学校88.6% 中学校62.9%	小学校88% 中学校51%



この施策で目指すもの

新たな観点で様々な地域資源（バショ・モノ・コト・ヒト）を活用した持続可能な観光産業を確立するとともに、観光を軸にした地域産業の活性化、地域課題の解決、市民の暮らしや社会の豊かさにつなげます。

▶ 前年度の実施内容・実績

- 市民による市内観光施設の利用促進を目的に、観光施設利用促進支援事業（市内の観光施設を利用する市民に対し利用料金の割引を実施した事業者に補助金を交付）を実施しました。
- 観光入込客数が年々減少している「赤目四十八滝」に賑わいを取り戻すため、事業者が行う大小様々な施設改修、観光DXの推進、地域力創造アドバイザー制度の活用など官民が一体となり観光地再生の取組を進めました。
- 旅行単価を増加させるために必要な市内市場の実態調査、市内事業者の意向調査、需要調査・分析などを重点的に実施しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5) 実績	目標値（2026年時点）
1	赤目四十八滝への年間延べ観光入込客数	116,695人	109,590人	144,000人
2	市内宿泊客の年間延べ数	46,037人	80,561人	65,000人
3	名張市を訪れた人の1人1回当たり旅行単価	9,582円	15,808円	13,000円



この施策で目指すもの

新規創業者や中小企業などへの支援を通じ、多くの魅力的な事業所を支えることで、事業の継続性を高めるとともに市内経済の循環を進めます。新たな事業展開、業態転換のための支援や多様な業種間の産業連携を図ることで、地域経済の活性化と活力あふれる産業の持続的な発展を目指します。

また、若者をはじめ多様化する雇用ニーズに対応するため、関係機関と連携し、第1次産業から第3次産業まで幅広く働く機会の確保及び新たな雇用の創出を目指します。

▶ 前年度の実績・取組内容

- 名張市事業承継人材マッチング支援協議会（フミダス）で、事業者の事業承継や新規事業展開への取組を支援し、事業者同士のマッチングや新規事業の実現に結びつきました。
- 若者移住定住チャレンジ支援事業で、創業希望者に補助金を交付し、市内への定住、空き家活用など、地域の課題解決につながりました。
- 市内の高校で起業に関するワークショップを行い、高校生に起業の魅力や楽しさを伝えることができました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	1年間で新規事業展開を実施する事業所の件数	53件	53件	73件
2	1年間の創業・事業承継の件数	27件	27件	35件
3	働く意欲のある人に生き生きと働ける場が確保されていると思う市民の割合	35.7%	38.7%	40%



緑の循環を促進し、豊かな森と緑をはぐくみます



この施策で目指すもの

かつて、木製まな板生産量では日本一として名を馳せた名張市が今一度木材のまちとしての再興を目指し、名張産木材の利用促進と林業の活性化を進めます。

市民が安全で豊かに暮らせるように適切な森林管理を図り災害に強い森林づくりを進めます。

未整備放置林を森林所有者に代わって整備することで水源かん養や地球温暖化防止、生物多様性保全など森林が有する様々な機能を十分に発揮させ健全な状態を目指します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 名張産木材の利用促進と林業の活性化を図るため、森林作業道整備事業補助金を創設しました。
- 災害防止や水源かん養といった森林の公益的機能の維持増進を図るため、名張市森林経営管理制度基本計画に基づき森林環境譲与税を活用した森林経営管理の一環として、森林整備に向けた意向調査や境界明確化の取組を進めました。
- 暮らしに身近な森林づくりや森林公園等の環境整備、木育推進を図るため、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、森林整備による安全性の確保や森林に親しむ機会の創出など、各種事業を実施しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	森林経営管理制度に基づく森林整備面積	0 h a	0 h a	2 0 0 h a
2	作業道開設延長	2 1 4 . 6 m	2 , 7 1 4 . 6 m	6 , 0 0 0 m
3	年間木材搬出量	1 , 2 1 6 m ³	2 , 6 8 7 . 5 m ³	3 , 0 0 0 m ³

はぐくむ 協力者、関係人口を増やし、「名張」らしさを はぐくみます



この施策で目指すもの

名張市に愛着を持ち、まちに主体的に関わる市民があふれるような市民参画型のシティプロモーションを進めるとともに将来的な移住を見据え、市内外から名張市を応援してくれる人や地域の様々な場面や取組の担い手として関わってくれる人の増加を図り、まちのにぎわいづくりを目指します。

また、次代を担う若い世代をはじめ多様な人々が、まちの魅力づくりや課題解決にチャレンジできる仕組みの構築や支援を進めるとともに、にぎわいの場所や居場所づくり支援に取り組みます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 市若手市職員と市内企業・団体等が連携し、eスポーツ大会（ゲーム対戦）やストリートフェスタ（ダンスやスケートボード等を披露するイベント）を開催し、若い世代が賑わいをおこす、集える場づくりを協働で進めました。
- 名張青峰高校において名張への興味や愛着を育む取組として、市長への政策プレゼンが実施されるとともに、市内就労の先輩社会人を同校に招き、市との協働による「名張で働く座談会」が開催され、“名張で働く”ことを考えるきっかけづくりが行われました。
- インキュベーション（人材育成、起業支援）施設となる「起業家工房」が近大高専内に開設され、若者の様々な活動やチャレンジの後押し、また、地域社会との連携を重視した実践的な教育に向けた環境が整備されました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	市内の高等学校・高等教育機関に在学する生徒などが名張市に住み続けたい、住みたいと感じている市民の割合	66.6%※	—	70.0%
2	①「まちをよくするために活動したい」または②「まちをよくするために活動している人に感謝したい」と考える市民の割合	①12.1%	①12.5%	①13.8%
		②59.7%	②69.9%	②62.7%

基準値が2024年（令和5年）実績のため2024年実績値が空白となっています。



この施策で目指すもの

保健・医療・福祉の連携を強化し、地域の見守りのネットワークの充実、支え合い助け合いにより、交流やつながりのある地域福祉の推進体制の整備を進め、全世代・全対象型の地域包括ケアシステムの更なる深化・推進を目指します。

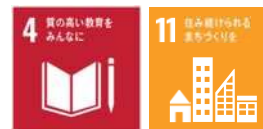
社会的・経済的な自立が困難な場合にも、社会保障制度を利用することで社会から取り残されることなく、安心できる暮らしが保障され、誰もが自立に向けて頑張れる社会づくりを進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- エリアディレクターを新たに保健分野にも配置するとともに、まちの保健室の機能・役割の周知や情報発信を強化するなど、支援を必要とする方や相談・支援業務を行う関係者への重層的なバックアップができるよう、体制の強化を図りました。
- リンクワーカー養成研修を実施し、社会的処方考え方を活用した支援を行う人材のスキルアップ、新たなつながりづくり、支援者同士の情報共有のためのプラットフォーム整備、地域住民同士のつながりづくりを進めました。
- 配食や地域ささえあい活動など各地域の取組を推進・支援するため、生活支援コーディネーターによる研修会やそれぞれの活動の情報交流会を実施しました。
- 生活保護制度の実施に加え、生活困窮者への自立に向けた支援体制を整備するため、社会福祉協議会への委託により、自立相談支援、就労支援、家計改善支援等に取り組みました。また、生活保護児童に対する学習支援事業を実施しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値(2026年時点)
1	隣近所や地域の人との交流があると感じている市民の割合	62.9%	61.6%	70.5%
2	まちの保健室を知っている市民の割合	61.7%	66.9%	70.9%



この施策で目指すもの

文化に触れる機会を、より多くつくることで、文化への意識向上を図り、地域文化の更なる発展を目指します。
また、史跡や能楽などの多様な文化資源を活用し、地域の魅力を発信することで、郷土への誇りと愛着心を高めます。
地域固有の伝統文化を守り、継承するとともに、それを発展させることで、地域の活性化を図ります。そして、伝統文化を通じて、地域間のつながりを強め、人間味あふれるまちづくりを目指します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 観阿弥顕彰会と共催し、市政70周年記念事業として「能楽公演」を実施し、約500名の市民に能楽を鑑賞いただき、伝統文化への関心を高めることができました。
- 名張藤堂家邸並びに郷土資料館において、企画展や体験教室の開催、夏見廃寺跡のライトアップ等、市民活動団体との連携事業により、今まで来館することの無かった層の来館を促し、多くの市民に郷土史に興味を持っていただく機会を創出することができました。
- 市美術展覧会と関連付けた事業の実施に取り組み、展覧会への関心を高め、出展者及び入場者の増を図ることができました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値(2026年時点)
1	市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合	37.5%	38.9%	42%
2	青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の年間入場利用者数	36,015人	38,615人	45,000人
3	名張市美術展覧会の出品数	129点	136点	155点

この施策で目指すもの

市民参画型のシティプロモーション（名張市の魅力の創造、磨き上げを行い、市内外へ戦略的に発信）を進めていくことで、まちへの愛着や誇りを醸成し、市民自らが当事者意識を持って地域活動等に参画する意欲を高めるとともに、新たな交流人口や関係人口を創出し、地域の持続的発展を目指します。

また、効果的な情報発信と市民参画を促すための広聴活動を充実させることで、市民と行政のよりよい関係づくりを行います。

▶ 前年度の取組内容・実績

○シティプロモーション戦略（導入編）を策定し、市民ワークショップによりブランドロゴの創出に取り組みました。

○まちに関心を持ち、魅力を発信する「まちの広報室」の運用を開始しました。また、子育てを応援する活動人口を増やすためのシティプロモーションサイトを市ホームページ内に立ち上げました。

○広報戦略を改訂し、伝わる広報の方針をまとめました。また、市公式LINEリニューアルによる新たな情報発信を開始しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	名張市を知人に「お勧めしたい」と考える市民の割合	13.0%	13.8%	14.7%
2	①「まちをよくするために活動したい」または②「まちをよくするために活動している人に感謝したい」と考える市民の割合	①12.1% ②59.7%	①12.5% ②69.9%	①13.8% ②62.7%
3	現在の名張市の情報提供や広聴制度について満足している市民の割合	76.7%	76.5%	80.0%



この施策で目指すもの

概ね小学校区単位に設置された地域づくり組織において、行政と地域の協働により、地域の将来像（地域ビジョン）の実現に向け、様々な取組を実施し、住民主体のまちづくりを進めてきました。

これまで進めてきた名張流のまちづくりを継承しつつ、若い世代を含めた住民全体が参画し、多様な主体と連携・協働しながら、急激な社会情勢の変化に対応できる持続可能なまちづくりを進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 名張ゆめづくり協働塾では、学生をはじめ多様な人たちの参画を目的にワークショップを行い、まちづくり活動人口の拡大に取り組みました。
- 地域づくり代表者会議では、意見交換や研修をととして組織相互の連携を図りました。また、市議会議員との懇談会ではシティプロモーションの認識を深めました。
- 昨年度は2回の地域づくり組織へ訪問し、地域課題や各地の特色ある事業について情報共有を行い、地域ビジョンの実現に向けて取り組みました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	地域ビジョンに掲げられている各種事業や地域づくり組織・区・自治会などの活動に参加したことがある市民の割合	53.5%	52.9%	60%
2	高校生や大学生など若者と連携した取組をしている地域づくり組織数	3地域	5地域	10地域



この施策で目指すもの

人と環境にやさしい持続可能な集約連携型都市の構築を目指し、円滑に自動車交通を処理するための道路整備と、公共交通による移動の利便性確保により、生活拠点間をつなぐ交通環境を整えます。また、多様な主体の協働による幅広い施策により、人と人との公共交通で結び、交流を創出するネットワークをつくります。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 利用促進事業として、バスの絵・川柳やお絵かきバスなどのバスへの愛着を高める継続事業に加え、コミュニティバスの紹介動画作成など新たな取組を実施しました。
- 利用者の利便性向上を図るため、商業施設と病院に新たな停留所の設置や待ち合い場所の確保を行いました。
- 利用者目線に立ったわかりやすい情報発信に努め、乗換案内サイトなどへの情報提供、行き先別時刻表、路線図の活用を行いました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	公共交通など市内の交通環境に満足している市民の割合	40.6%	36.7%	43%
2	コミュニティバス「ナッキー号」の1日平均利用者数	181人	197人	175人※
3	1年間に公共交通の利用促進に向けた啓発活動をした回数	5回	7回	6回

※人口減少を考慮した数値



この施策で目指すもの

活力あふれるまちを目指し、「産業」・「若者」・「ひと」に関する施策の重点的な取組とともに、各種施策の横断的な取組を推進し、地域活力の創出に向けた取組を進めます。また、名張市の課題解決や持続的な発展に向け、大学や民間事業者のサービスやノウハウを活用し、新しい施策や取組を進めます。

医療、福祉、市民生活、消防、防災、観光等の分野や道路等の交通インフラの整備など、県及び近隣自治体との幅広い分野で相互に補完・協力する広域的な関係づくりにより、重層的な行政運営を目指します。

▶ 前年度の取組内容・実績

○伊賀市との定住自立圏形成に向けた取組に向け、議会説明等を行い、伊賀市との協議を進めました。

○株式会社リクルートとの地域活性化に向けた協定締結とともに、パーペチュアル・ヘルプ大学（フィリピン）と相互協力、交流等を図る覚書を締結しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	今後も名張市に住みたいと感じている市民の割合	83.8%	85.4%	85%
2	「なばり新時代戦略」重点プロジェクト推進に関する企業等との連携協定数【延べ数】	0件	2件	8件



多様性を認め合える男女共同参画と多文化共生のまちをつくります



この施策で目指すもの

市民一人一人が性別や国籍、人種に関わりなく、互いの違いを認め合い、共に支え合うことで、個性を十分に発揮し、誰もが元気で幸せに暮らせる男女共同参画（ジェンダー平等）・多文化共生のまち名張を市民、事業者、地域づくり組織、市民活動団体など多様な主体との連携・協働により実現します。

前年度の取組内容・実績

- 6月の男女共同参画週間に市内大型スーパーでの街頭啓発、市役所及びやなせ宿での啓発パネルの展示、市立図書館では特集展示を行うなどの周知啓発を行いました。
- 男女共同参画フォーラムとして「自分らしく生きるヒント 真っすぐに信じた道を突きめ！」と題した講演会を開催し、性の多様性について周知を図りました。
- 「まちじゅう元気！イクボス宣言なばり」賛同事業所を対象に、「イクボスで成果と笑顔が共にアップ」と題した研修を実施し、ワーク・ライフ・バランスを推進しました。

取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	男女の固定的な役割分担に同感しないという市民の割合	83.4%	82.2%	90%
2	男女共同参画に関する講座の参加者数 （市担当部署関連のもの）	30人	242人	200人
3	多文化共生センター利用者数（電話、メール含む）	1,034人	1,498人	1,500人



この施策で目指すもの

生涯を通じて学ぶことができる環境の整備、多様な学習機会の提供及び、学習成果を活用した活動の場の提供が図れるよう取組を進めます。

また、青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、心身ともに健全にたくましく成長していけるよう、学校・家庭・地域等が連携して青少年の健全育成に取り組めます。

▶ 前年度の実施内容・実績

- 名張を知るための講座「なばりカレッジ」（全7回）を再開し、座学講座や青蓮寺ダム・夏見廃寺などの施設見学や、皇學館大学と連携した「ふるさと講座」を実施しました。また、企業と連携した体験型講習会「スマートフォン講座」を37講座開催しました。
- 放課後子ども教室は、1教室が新たに開設と合計7教室の実施となりました。
- 図書館では、新たな企画展示等による利用促進を図りました。また、小学校5・6年生と中学生を対象としたジュニア司書養成講座を開催し、読書の楽しさや大切さを伝える読書活動推進リーダーの育成を行いました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合	42.3%	42.9%	50%
2	放課後子ども教室設置数	6教室	7教室	9教室
3	市民1人当たりの年間図書貸出冊数	4.9冊	5.0冊	6.5冊



この施策で目指すもの

“なばり農業”の実現を目指し、多彩な担い手への支援をはじめ高付加価値化の推進等、地域との対話を基本に関係機関と連携を図り進めます。

有害鳥獣による被害防止と農業者の営農意欲の低下を抑制するため、持続可能な体制整備と有害鳥獣の捕獲・駆除活動を進めます。農林業基盤の整備とともに、農山村や農地・山林の持つ多面的機能の向上を図り、農福連携をはじめ商工業、観光、地域活動、教育、子育て等の各施策と連携し快適で美しいむらづくりを進めます。

前年度の実績

- 「なばり農業」の実現に向け、また、「みどりの食料システム戦略」の取組の一環である有機農業を推進するため市内飲食店、宿泊施設、小学校給食において地元有機農産物の試行提供を行いました。
- 農地等を良好に保全するため、地域において共同で実施している水路の泥上げや農道の草刈りなどの維持管理活動を支援しました。
- 有害鳥獣による被害防止のため、被害地区と猟友会ほか関係機関との連携を図り、効果的な防除及び捕獲を行うとともに、捕獲の担い手不足に対応するため、捕獲活動を行いながら獣肉等の利活用を目指す地域おこし協力隊を導入しました。

取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値(2026年時点)
1	認定農業者数	37人	39人	41人
2	名張市の農産物を消費している市民の割合(地産地消の割合)	68.1%	66.3%	73.8%
3	有害鳥獣の捕獲従事者数	51人	52人	60人



この施策で目指すもの

地球温暖化により、異常気象の発生、食料生産の低下、生態系の異変など深刻な影響が生じています。名張市では、市民・事業者・行政がごみの減量や4 Rの推進により、資源循環型社会を実践してきました。

今後、これらの取組を更に強化するとともに、一人一人が自覚をもって温室効果ガスの排出削減に向けたライフスタイルやビジネススタイルを確立し、再生可能エネルギーの取組を推進するなどにより脱炭素社会の構築を目指します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 伊賀南部環境衛生組合と連携しながら、ごみの適正排出や分別ルールの啓発等に取り組みました。また、食品ロスに関する啓発活動や学校等への環境学習など、さらなるごみの排出量削減の推進に努めました。
- 市役所庁舎をはじめとした公共施設の照明のLED化、CO₂フリー電力利用を進めました。
- 名張市環境マネジメントシステムをツールを活用し、市の庁舎など公共施設における事務事業に関して、温室効果ガス排出量の削減に努めました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値(2026年時点)
1	1人1日当たりのごみの排出量(※事業系含む)	731.1g	691.1g	720g
2	日常生活で省資源・省エネルギーを心掛けている市民の割合	87.4%	85.4%	92%
3	市の事務事業に係る1年間のCO ₂ 排出量	12,789t	11,543t	10,000t

この施策で目指すもの

土地に根付いてきた自然と共生する暮らしと、その暮らしの中に新しく誕生した市街地が、調和しながら発展してきた歴史を踏まえ、それぞれのライフステージに応える質の高い都市環境の形成と、地域特性に応じた個性を際立たせるため、地域をコンパクトに集約高密度化し、交通でつなぐことにより、「自然」、「ひと」、「まち」の関係性を更に深みのある共生へと進展させ、資源循環型の集約連携都市の形成に取り組めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 2022（令和4）年度から始めた立地適正化計画策定検討委員会（全5回）を予定通り実施し、計画案を作成しました。
- 立地適正化計画策定に向けて、地域説明会（10月～11月）を3回実施し、パブリックコメント（1月～2月実施）及び地域説明会では13件（4人）のご意見を頂き、計画に反映させました。
- 三重県が主催する研修や会議に積極的に参加し、景観や景観まちづくりに関する知識習得等に努めました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	自分が住む地域におけるまち並みなど景観や環境が良好であると感じる市民の割合	75.9%	74.8%	80%
2	1年間の都市計画等に関する市民等との協働・参画状況	6.3回	9回	7回



すすめる

消防救急体制の強化をすすめます



この施策で目指すもの

複雑・多様化する災害や高齢化により増加する救急需要に対応するため、車両や資機材、消防水利など消防施設の計画的な整備と隊員の教育訓練に取り組むとともに、消防広域化も見据えながら県及び隣接市との連携・協力を推進し、消防・救急体制の充実強化を図ります。

また、消防団や関係団体と連携しながら、防火・防災意識の高揚と応急手当の普及を推進するとともに、消防団員の減少を抑制し、地域防災力の強化を目指します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 令和6年度から開始する伊賀市との消防指令業務共同運用に向け、伊賀市消防本部庁舎内に「伊賀地域消防指令センター」を整備し、令和6年3月より仮運用を開始しました。
- 増加傾向を続ける救急件数への対応強化及び消防力の整備指針に基づく指揮体制の構築並びに段階的な定年引上げによる職員の高齢化対策として、組織改編と職員定数の見直しを進めました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	消防・救急活動に安心を感じている市民の割合	79.2%	78.4%	81.0%
2	住宅火災への備えをしている市民の割合	82.0%	81.6%	85%
3	市民等による心肺蘇生法の実施割合	50.7%	57.0%	60%

すすめる 未来を見据えた社会づくりを支える適正な土地利用をすすめます



この施策で目指すもの

本格的な人口減少社会や少子高齢化の到来を見据え、人々の営みを支える基盤となる土地の利用については、「公共の福祉」の優先を基本として、自然環境、歴史や文化、社会的な特性を活用しつつ、都市的な土地利用、農地及び森林等の適切な保全、自然公園等の保全等多様な主体の協働により、適正かつ計画的な利用や管理を進めるとともに、国の定める「土地基本方針」も踏まえ、基盤情報である地籍の明確化を進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 地籍調査においては、第2次名張市地籍調査事業実施計画に基づき、既存測量成果の国土調査法第19条第5項指定に取り組みました。また、箕曲Ⅰ・箕曲Ⅱ地区の一部及び下小波田2地区の調査を実施しました。
- 蔵持地域において農政部局と合同で説明会を実施し、用途地域の指定案等、都市的土地利用について説明を行いました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	秩序ある土地利用が行われていると感じる市民の割合	52.8%	55.1%	55%
2	地籍調査の進捗率	17%	17.8%	20%



すすめる

社会変化に対応した行政改革とデジタル
改革をすすめます

この施策で目指すもの

少子高齢化や人口減少の進展に伴う社会課題に対応するため、行政・デジタル改革を進めます。

限られた資源（行政を運営するための人、モノ、カネ、情報）の中で持続可能な行政運営の実現のため、デジタル技術による行政機能の向上と市民視点に立った快適で利便性の高い行政サービスの提供を目指します。

▶ 前年度の実績

- 「名張市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例」の制定を行い、手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図りました。
- 多くの市民が住民票等の各種証明書をコンビニ等で取得できるようマイナンバーカードの普及促進を図りました。また、コンビニ交付サービスの利用を啓発し、市民の利便性を高め、窓口の混雑緩和など、窓口サービスの向上に取り組みました。
- 名張市公式LINEをリニューアルし、受信設定をすれば必要な情報が届く機能を追加し、子育て情報以外にもイベント情報や防災情報など市全般の情報を発信することが可能となりました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	電子申請届出に対応するサービスの件数	14件	21件	35件
2	行政サービスの質や利便性について満足していると感じる市民の割合	61.4%	64.1%	65.0%

すすめる

持続可能な財政運営をすすめます



この施策で目指すもの

健全な財政運営を行うため、基金の取崩しや赤字債の借入に頼らず、歳入に見合った予算編成を原則とし、財政調整基金の計画的な積立てや市債残高の圧縮に取り組み、社会経済動向等に左右されない安定した行政サービスを提供できる持続可能な財政運営を進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 令和5年度は、退職手当債や行政改革推進債の借入れを行わなかったことや新規市債発行額を当年度元金償還額以内とする方針を遵守し、公債費負担を抑制しました。
- 中期的な財政運営の指針とするため中期財政計画（ローリング版）を策定し、庁内及び議会に公表するとともに、令和5年度にスタートした「なばり新時代戦略」に掲げる施策実現に向けての財源検討資料として活用を図りました。
- 令和6年度当初予算編成では、都市振興税がなくなる中、持続可能な財政運営ができるよう、事務事業見直しの検討結果の反映や特別会計・企業会計繰出金の精査を行うとともに、全庁的なクラウドファンディングの積極活用を促しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	市債残高（臨時財政対策債を除く）	197億7,800万円	188億9,500万円	170億1,600万円
2	将来負担比率	161.6%	144.9%	139.0%

ささえる
市民の健康をささえます



この施策で目指すもの

健康寿命の延伸を図り、市民が住み慣れた地域で自立した社会生活を営むことを目指し、生活習慣の改善や食育等の推進により、社会全体で支え合いながら、市民が主体的に健康づくりに取り組むための環境整備や仕組みづくりを進めます。

▶ 前年度の実績

- 健（検）診を受診しやすい環境づくりとして、地域づくり組織と協働し、地域の市民センター等で健（検）診を実施しました。また、若い世代ががん検診を受診しやすいように、休日のがん検診の開催や、託児付きがん検診を実施しました。
- 各地域のサロンや高齢者学級等で、生活習慣病予防や健康づくりについて健康教育を実施しました。また、企業とも連携しがん検診の啓発や、働く世代への生活習慣病予防について健康教育を実施しました。
- 食育の推進については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、これまで制限し開催していた調理実習等の事業を再開し、料理や食事を楽しむ機会を提供しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	健康な暮らしを送っていると感じている市民の割合	81.7%	80.0%	85%
2	特定健診（国保）受診率	44%	42.6%	60%
3	過去1年間に歯科検診を受診した市民の割合	62.7%	62.3%	65.0%
4	朝食を食べている児童・生徒の割合	児童 95.4% 生徒 93.0%	児童 95.6% 生徒 92.1%	児童 97.0% 生徒 97.0%

ささえる
地域の医療をささえます



この施策で目指すもの

市民が安心して適切な医療を受けることができるよう、伊賀地域をはじめとする圏域内の関係機関との連携強化や機能分化を進めます。

また、名張市立病院の医療体制の維持・充実に取り組み、安定した地域医療体制の整備を進めるとともに、平時から新興感染症の感染拡大時などに備えた体制整備を進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 「伊賀地域二次救急医療に係る意見交換会」を定期的を開催し、3病院での輪番体制による二次救急医療体制の継続確認など、地域における救急医療について協議し、連携強化や医療体制の確保に努めました。
- 三重大学等による寄附講座の開設により、地域の医療体制等に係る調査研究を進めるとともに、市立病院への派遣医師の確保を図りました。
- 病診連携の推進に向け開業医訪問等を再開しましたが、地域医療機関からの紹介件数は一時的な診療体制の縮小等の影響もあり増加できませんでした。医療提供体制の堅持・拡充に努め、地域医療機関との更なる連携強化に取り組む必要があります。
- 令和6年1月に市立病院の経営形態を地方独立行政法人に移行する方針を表明しました。移行予定時期を令和7年10月とし、市民説明会のほか職員説明会の開催、また必要な法令整備など、計画的に準備を進めています。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	地域医療機関（開業医や公立病院等）での現在の医療体制に満足している市民の割合	59.9%	59.6%	63%
2	かかりつけ医を決めている人の割合	73.7%	76.4%	85%
3	地域医療機関などから市立病院への1か月の紹介件数	497件	459件	600件
4	市立病院から地域医療機関への1か月の紹介件数	521件	473件	600件



この施策で目指すもの

高齢者が慣れ親しんだ地域で、いつまでも生き生きと、自分らしく日常生活を営むことができるよう、福祉サービスや介護保険サービスの充実を図り、高齢者が地域で安全で安心して暮らすことができる生活の基盤を支えます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 単身高齢者及び高齢者のみ世帯の方への配食サービスや軽度生活援助事業等の高齢者福祉サービスを提供し、住み慣れた地域での在宅生活の支援を行いました。
- 在宅医療・介護連携推進事業では、医療、福祉、保健従事者など関係職種が参加する多職種連携研修を実施し、在宅医療の推進とネットワークの構築に努めました。
- 認知症総合支援事業の取組として、認知症サポーター養成講座を開催するとともに、2日間にわたり認知症の基礎知識を深める「なばり認知症ステップアップ講座」を実施しました。
- 高齢者の生きがいや社会参加、閉じこもり防止、認知症予防の促進を目的とする老人クラブの取組を支援しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値(2026年時点)
1	日常生活の中で生きがいを感じている高齢者の割合	75.8%	75.8%	81%
2	認知症サポーターの養成数【延べ人数】	11,354人	13,010人	15,000人

ささえる 障害者の自立と社会参加をささえます



この施策で目指すもの

障害者が地域で自立した生活を送れるよう、農福連携の取組や就労支援、障害者の理解促進に向けた取組を進めます。複雑化、多様化するニーズに対し、分野を越えた様々な機関との連携により支援の充実を図り、障害者を含めた様々な人が生きがいを持って社会参加ができる仕組みづくりを進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 障害者福祉施策の基本方向を定める総合的な計画である「第六次名張市障害者福祉計画」、障害福祉サービス等を確保するための方策などを示す実施計画として位置付けている「第7期名張市障害福祉計画」を策定しました。
- 障害者の就労支援においては、障害者人材センターの直接的な取組から13人の方々と一般就労へ繋げ、間接的な取組も合わせると合計67人の方々と一般就労へ繋げることができました。
- 障害及び障害者理解を深めるための映画会等を開催し、障害者理解の促進に取り組みました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	地域で自立した生活につながった障害者の数【延べ人数】	5人	6人	25人
2	一般就労につながった障害者の数【延べ人数】	12人	13人	60人

ささえる

安全な水道水で市民のくらしをささえます



この施策で目指すもの

将来にわたって良質な水道サービスの提供を続けていくため「第2次名張市水道ビジョン」に基づき、老朽化した水道施設の更新・改良を進めるとともに耐震性の向上を図るなど、災害に強い水道施設を整備するほか水質管理体制の充実により、安定的に安心して飲める水道水を供給します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 県道上野名張線や市道西原水越線及び桔梗が丘をはじめとする各地区の道路下に埋設されている老朽管を合わせて約6.9 kmの管路を更新し耐震化を図りました。
- カビ臭濃度の水質検査は法定回数を上回る頻度で実施し、検査結果を浄水処理工程にフィードバックすることで、濃度を3ng/L以下に抑えることができました。
- 中長期的な視点に立った経営の基本計画となる水道事業経営戦略に基づき、管路の耐震化事業等にかかる財源確保を図るとともに、財政計画の更新を行いました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	上水道サービスに満足している市民の割合	77.1%	80.4%	79.1%
2	水道水のおいしさ（におい）に関する指標【カビ臭濃度】※	4 ng/L	3 ng/L	3 ng/L以下
3	基幹管路における耐震管全体の長さ	10,371 m	11,488 m	11,473 m

※カビ臭濃度の国の水質基準は10 ng/Lです。1 ng（ナノグラム）は10億分の1 g（グラム）



この施策で目指すもの

生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

そして、利用者のニーズを把握しながら、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に進めていきます。

また、スポーツ技術の向上や競技スポーツ人口の拡大を図るため、各種大会の開催や指導者の育成などに努めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- コロナウイルスの5類移行後、市民がスポーツ・レクリエーションに親しめる機会となるイベント等を開催するとともに、学校体育施設開放事業を推進しました。
- 体育施設の安全対策及び長寿命化を図るべく、体育施設の改修、修繕を行いました。
- スポーツ推進審議会において、総合計画「なばり新時代戦略」の行動計画としてスポーツ推進計画の改定内容を審議いただくとともに、市民プールの在り方等の検討について答申を受けました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合	41.5%	40.5%	48%
2	市民1人当たりの年間体育施設利用回数	3.8回	4.8回	6回
3	総合型地域スポーツクラブの認定団体数	5団体	5団体	7団体



活動や憩いの場となる緑地や公園の環境を ととのえます



この施策で目指すもの

身近にある都市公園・親水公園等の適切な維持管理、住宅団地の緑地の機能である緑空間の創出を推進し、快適な憩いの空間確保に取り組むとともに、地域づくり組織をはじめ、市内のボランティア団体などの多様な主体と連携・協力し、適切な公園施設等の維持管理を進めます。

また、ユニバーサルデザインの理念に基づき、誰もが安心して利用できる都市公園の整備を目指します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 公園・緑地の維持管理について、地域づくり組織やボランティア団体等に公園・緑地の管理運営委託を実施しました。
 - ・市内公園数 165 箇所のうち 136 箇所
- 公園施設長寿命化計画に基づき、公園の遊具更新を実施しました。
 - ・令和4年度補正分 10公園（13施設）
 - ・令和5年度実績 9公園（13施設）

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	水辺や緑とのふれあいに満足している市民の割合	78.3%	75.5%	80%
2	市内の公園の内、地域づくり組織等が維持管理をしている割合	81.2%	82.4%	85%



この施策で目指すもの

災害に強い住宅、高齢者や障害者が暮らしやすい住宅、子育て世帯が移住定住できる住宅など、住宅の「質」の向上を目指すために、住宅の耐震化やリフォームなどによる性能改善及び有効活用を推進するとともに、住宅確保要配慮者のための住宅を確保し、誰もが安全で安心して快適に住み続けられるよう、少子高齢化社会に対応した住環境を整備します。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 旧耐震制度により建築された木造住宅の耐震の必要性や重要性は、ダイレクトメールの送付をはじめ、様々な広報ツールを活用、18件の木造住宅耐震診断実施につなげました。
- 空き家バンク制度を活用したことにより、空き家等の利活用や流通、移住促進等に寄与しました。また、市内の管理不全空き家に対して、所有者へ文書の指導、特に周囲に対して危険な特定空家については、最終的に代執行を行うなど、適正管理を実施しました。
- 生活困窮者等に対し、名張市社会福祉協議会と連携し、生活（住宅）相談会を実施しました。また、名張市営住宅等長寿命化計画に基づき、一ノ井市営住宅において、屋上防水及び給水設備の改修工事を行いました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	現在の住環境について、生涯、安心して快適に暮らすことができると思う市民の割合	63.4%	63.7%	65%
2	1981（昭和56）年以前建築の木造住宅耐震診断受診率	24.1%	26.3%	30%
3	空き家バンク登録物件における1年間の成約数	27件	19件	32件



この施策で目指すもの

快適な生活環境の形成と河川等の水質保全のために、名張市下水道マスタープランに基づき、公共下水道の新規整備や住宅地污水处理施設の接続移管をはじめ、地域の状況に応じた合理的な整備手法による下水道事業を進めます。

また、各污水处理施設の適正な維持管理や持続的な事業管理に取り組みます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 公共下水道中央処理区内の未整備地の整備促進や美旗地域への区域拡大整備工事を進めるとともに、中央浄化センターでは水処理施設の増設事業に取り組みました。
- ストックマネジメント計画等に基づき、各処理区の公共下水道施設の更新・改築に取り組みました。
- 令和2年度に企業会計へ移行したことから、下水道事業経営戦略について、公営企業の観点から見直し・改定を行いました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	生活排水を適切に処理する環境が整えられていると思う市民の割合	80.5%	83.0%	82.4%
2	公共下水道等を利用できる市民の割合	70.8%	70.4%	75.6%
3	下水道の処理区域内で実際に下水道に接続している人口の割合	90.1%	90.9%	90.8%



まもる

みんなの人権をまもります



この施策で目指すもの

人権尊重のまちの実現に向けて、全ての分野において一人一人が互いの個性や価値観の違いを認め合い、誰もが自己決定や自己実現を妨げられることなく、共に支え合い、助け合いながら、自分らしく生き生きと暮らせるよう、差別をなくす取組を進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 人権週間ふれあいコンサートを2部構成で開催し、第1部では人権作品の表彰と人権作文・メッセージの朗読を行い、第2部ではダンス&トークショーを行い、互いの人権を尊重しあうことの大切さについて啓発を行いました。
- 人権教育主事、社会同和教育指導員を人権学習会や市内の学校（保・幼・小・中・高）における人権・同和教育指導案検討会議、中学校区人権教育推進協議会に派遣し、人権・同和教育の推進に取り組みました。
- 人権ワークショップ課題別講座、人権相談力アップ研修、人権啓発企業研修会、市民文化講座を実施し、啓発・研修を行いました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	部落差別をはじめとするあらゆる差別を解消するため、自らができることを考え取り組みたいと思っている市民の割合	68.5%	64.4%	72.5%
2	人権に関する講座の参加者数（市担当部署関連のもの）	258人	418人	458人

まもる

犯罪や交通事故等からまもります



この施策で目指すもの

警察や各地域で行われている防犯・交通安全の取組とも連携し、様々な主体による地域ぐるみの見守りの目が行き届いている環境づくりに努め、子どもや高齢者など全ての地域住民を犯罪や交通事故などから守り、安全に住み続けられるまちづくりを進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 他の相談機関と連携し、専門性を要する相談は適切な機関に紹介するとともに、弁護士相談等をワンストップで予約できるようにしました。また、相談員2名で消費生活相談を実施しました。
- 生活安全推進協議会交通安全部会委員による定期的な街頭指導活動により、小学校児童らの通学時の交通安全見守りを実施しました。
- 名張川納涼花火大会において、犯罪等を未然に防止するため、名張市生活安全推進協議会防犯部会委員による街頭特別警戒を実施しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	犯罪に対して不安感を持っている市民の割合	56.2%	40.3%	53.5%
2	交通安全啓発活動等への参加人数	620人	691人	900人



まもる

防災減災でまちをまもります



この施策で目指すもの

台風や線状降水帯などによる豪雨、いつ起こってもおかしくない南海トラフ地震などの大規模自然災害への対応力強化を図ります。災害時、誰1人取り残さないという視点に立ち、市、関係機関、地域が協働しながら、平時からの備えを十分に行い、非常時にそれぞれの役割が果たせるようまちづくりを進めます。

▶ 前年度の実施内容・実績

- 市、地域、関係機関の連携強化を目指し、地域防災計画の改訂及び市受援計画を策定しました。
- 名張市街地の浸水被害軽減のため黒田大橋下流の引堤工事を進めるとともに、土砂災害予防のための砂防堰堤事業も継続実施しています。また、水路や河川施設の更新、土砂の浚渫、護岸補修等による洪水対策を実施しました。
- 三重県との協力で、建築物所有者への災害リスク啓発を促進しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	地震等の災害への備えをしている市民の割合	41.7%	45.0%	50%
2	1年間における防災研修会等の参加者数	108人	407人	625人
3	地区防災計画を策定している地域づくり組織数	0地域	0地域	8地域



この施策で目指すもの

美しい水、空気、土は、わたしたちの安心した生活環境を保つ根幹となるものです。良好な水質の保全や大気汚染、土壌汚染の防止を図り、生活に影響を及ぼす環境負荷の低減に努め、健康で安心した暮らしの基盤を確保します。

また、騒音、振動、悪臭は、落ち着いた日常生活に不快感をもたらすものとなるため、防止対策を講じ、安らぎのある快適な生活環境をまもります。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 名張川の水質保全という視点から、名張川下流である家野橋において水質汚濁の監視を行いました。
- 市内主要幹線道路を対象に、自動車騒音状況の常時監視を実施しました。
- 市内一般地域の騒音状況及び道路に面する地域の振動状況を把握するために、環境騒音測定及び道路交通振動測定を実施しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値（2026年時点）
1	名張川家野橋におけるBOD※の年間平均値	1.0mg/L	0.9mg/L	1.0mg/L
2	自動車騒音調査による基準達成戸数の割合	98.9%	99.8%	100%



この施策で目指すもの

幹線道路のネットワーク化による代替機能の向上と広域道路網の整備促進を進めるとともに、今後、高齢化社会の進展など、多様化する道路交通需要に的確に対応するため、ユニバーサルデザインを基本とした計画による道路空間の質の向上を進めます。

橋梁の法定点検を継続し、予防的な修繕を実施する予防保全型へと管理手法の転換を図り、既存橋梁に対して効率的効果的なメンテナンスサイクルを継続します。

また、地域と連携した維持管理や事業の選定を進めるとともに、事業効果の検証を行いながら生活道路の整備を進めます。

▶ 前年度の取組内容・実績

- 名阪国道へアクセスし広域的な地域の連携による経済・社会活動を実現する国道368号の4車線化やその他の県道バイパス事業について三重県と協働し整備の促進を図り、国道165号までの一部区間の供用を開始しました。
- 歩行者の安全で安心、快適な歩行空間を創出するため、ユニバーサルデザインに基づく歩道整備を実施しました。また、快適で安全な走行性を確保するため市内幹線道路の舗装補修を実施しました。
- 生活道路の管理については、除草作業や原材料支給による軽微な修繕など地域と連携し取り組みました。また、効果的な整備手法による局部改良等の工事を実施し、快適で安全な道路環境の取組を実施しました。

▶ 取組の評価

No	評価する内容	基準値	2024年(R5実績)	目標値(2026年時点)
1	市内の道路整備が進み、移動しやすくなったと感じている市民の割合	48.9%	49.8%	60%
2	計画期間内道路整備延長	40.5%	58.4%	70%
3	地域づくり組織等が主体となって、道路等の維持管理に携わっている箇所数	66箇所	68箇所	73箇所